

おもろさうしで
旅する沖縄 7



国頭

島建ての神・アマミキヨが降り立ち、沖縄最初の聖地「安須杜（アシムイ）」を創ったという琉球開闢神話が伝わる国頭。そんな亜熱帯の森がひろがる、神秘の里を旅する。

文・撮影／安村直樹 デザイン／有田次男

一 安須杜の

切り口の

君の歡へ

清ら手折り富

又 何れのふた

何れのまきよ 降れ欲しや

又 意地気まきよ

意地気ふた 降れ欲しや

『おもろさうし』第13巻 818

沖縄本島最北端、辺土集落の前方にそそり立つ岩山「安須杜」。琉球最初の歴史書「中山世鑑」では、島建ての神・アマミキヨが降り立ち、沖縄最初の聖地・安須杜を創ったという琉球開闢神話を伝えている。安須杜御嶽をはじめ、40を超える御願所があり、今も折りを捧げる人々が後を絶たない。

『おもろさうし』は、首里王府が16世紀から17世紀にかけて編纂した沖縄最古の歌謡集。12世紀頃から17世紀初頭に渡って謡われた島々、村々のウムイ（思い）が1554首収められている。その空間的広がり、奄美の島々から宮古、八重山は言うまでもなく、遠くは鎌倉や京都、唐、河内（ベトナム）、南蛮（タイ）の国々にまでおよぶ。

参考文献 『おもろさうし』（上・下）外間守善校注・岩波文庫



急速な溶食や浸食でできたタワー状のカルスト「虚空岩」(右上)など、世界最北端の熱帯カルスト地形のさまざまな特徴が見られる大石林山。石中の御願所(右下)。気根を垂らした姿が神々しい、キジムナーの目撃談も多い「御願ガジュマル」(上)。

聖なる地、イヘヤ、シジャラの杜に、奇岩や巨石、亜熱帯の森、大パノラマなど、さまざまな表情を見せる4つの散策コースが広がる。2億年の地球の息吹と、やんばるの濃密な自然が体感できる。パワースポットとしても大人気。



2億年の地球の息吹を感じ 自然と対話する場所。 大石林山



だいせきりんざん
住/国頭村宜名真1241
☎0980-41-8117
入山料/大人820円、
小人(4歳~中学生) 520円
受付時間/9:00~17:00
(10月~3月は~16:00)
休/年中無休
<http://www.sekirinzan.com>

石灰岩が溶食し鋭く上がった「烏帽子岩」(上)。3回くぐると生まれ変わることがきくという「生まれ変わりの石」(右下)。世の中を豊にしてくれる白龍が棲むと伝えられる池「鍋池」(左下)。

「おもろ歌人あかわりが、おもろを申し上げます。今日の吉き日に、安須杜の世を支配する力を持つ野で水を、国王様に奉れ」

琉球国王の年始清めに執り行われた「お水撫で(ウビーナデー)」という儀式で使用するため、王府は毎年旧暦の12月20日に使者を遣わし、安須杜の麓、辺戸集落の辺戸大川(へどうつかー)の水を汲み、新年の若

水として献上した。「お水取り」と呼ばれるこの行事は、国を支配し平穏を保持する力のある辺戸大川の水で、国王とその子ども達、開得大君とその子ども達も健康で長寿であることを願うものでもあった。1943年まで約450年間継承されていたこの「お水取り」の儀式は、戦後途絶えたが、1999年に約60年ぶりに復活。現在、年の瀬の風物詩として毎年開催されている。



安須杜の麓、辺戸集落にある辺戸大川。深い森の奥から清らかな水が流れている。上の写真は昨年末行われた「首里城お水取り行事」の風景(写真提供:NPO 法人首里まちづくり研究会)。



アマミキヨが降り立った
琉球神話の杜を歩く

「安須杜の神女、切り口(アシムイの別称)の神女が喜び踊り、美しい手折り富船を浮かべて、どこの村に降りようか、すぐれた立派な集落に降りたいものだ」という意味のこの「おもろ」は、安須杜(アシムイ)に神が降りてきたことを謡っている。琉球最初の歴史書、羽地朝秀の『中山世鑑』(1650年)でも、島建ての神・アマミキヨが降り立ち、沖縄最初の聖地・安須杜を創り、続いて今帰仁のカナヒヤブ、知念グスク、斎場御嶽、ヤブサツの浦原、玉城グスク、クボウ御嶽、首里杜御嶽、真玉杜御嶽を順に創ったと伝える。

沖繩本島最北端の村・国頭。その辺戸の集落前に神々しく連なる四峰の岩山・安須杜は、地元では黄金森(こがねもり)とも呼ばれる聖なる地である。2億年前の石灰岩層が隆起し、長い年月をかけて浸食された四連の岩山は、東方より「シノクセ嶽」「アフリ嶽」「シジャラ嶽」「イヘヤ」と呼ばれている。安須杜は「長老の杜」という意味で、峰に名付けられたアフリは「天帝の差す傘」、シジャラは「女性の乳房」を意味する。

安須杜は、「おもろさうし」に数多く謡われている。

一 辺戸の安須杜に 押せや
辺戸の切り口に 押せや
押せや やちよく
又 今日の良い日に
今日のきや良かる日に
『おもろさうし』第17巻1191

「辺戸の安須杜で、辺戸の切り口で船を押せよ。神々の乗る船を押せよ。押せよ村頭の妻女たち。神祭りの今日の良き日、輝かしい日に」

また、第13巻868では、喜界島から発つ民俗渡来の様子が謡われ、奄美諸島の島々を渡り、沖繩本島へは最初に安須杜へ着き、その後南下して首里杜へ到着する経路が謡われている。琉球王国時代には王家の繁栄、五穀豊穡、航海安全をこの地で祈り、安須杜御嶽をはじめとした40を超える御願所では、今も折りを捧げる人々が後を絶たない。

一 あかわりぎや おもろ
安須杜の
世持つ野で水よ みおやせ
又 今日の良い日に
『おもろさうし』第5巻255



鳴き声に目覚めると、部屋の前をヤンバルクイナが散歩している。森に溶け込むように建つコテージとログハウスが2部屋。2年かけ手づくりしたというこの素敵な空間は、森に包まれるように、瑞々しくあたたかで気持ちがいい。



緩やかに気が流れる
緑の聖地の隠れ宿。
空の間 INDIGO



写真上の外観と内観はコテージタイプの部屋。食事はその日仕入れた食材と庭や裏山の野草で、さきっとコース仕立てのおいしい料理をつくってくれる。左の建物は絵本や本が置いてあるアトリエ。



ソラノマ インディゴ
住 / 国頭村奥1866
☎080-1708-8851
1泊2食付1人7500円~8000円
(素泊まり4000円~4500円)
<http://www.soranoma-indigo.com>
※p14のカフェ特集にも掲載。

比地大滝の入口、比地川の清流が心地いいログハウス。県産、外国産の安心安全な食材を中心に、ナチュラル&オーガニックなメニューを提供。人気のINDIANカレー定食(650円)をはじめ、魅力的なこだわりの品々が並んでいる。



手づくりの小豆、白玉、黒蜜に無添加シロップをトッピングした比地カフェ特製ぜんざい(350円)。森の緑と川のせせらぎを一緒に爽やかなひと時を。



ひじカフェ
住 / 国頭村字比地781-1
☎0980-41-3636
営業時間 / 11:00~17:00
休 / 火曜日
<https://ja-jp.facebook.com/hijicafe>

緑の清流でいただく
体よろこぶこだわりメニュー。
比地カフェ

くの人々に親しまれている。国の重要無形民俗文化財に指定されている「安田のシヌグ」もまた、自然と深く結びついた暮らしから生まれた、国頭村安田の伝統的な祭祀である。旧暦7月の初亥の日に行われ、無病息災や豊漁、豊漁、五穀豊穰を祈願する。大シヌグ(うふしぬぐ)とシヌグ小(しぬぐんくわー)が1年交代で行われ、大シヌグに行

われる山ヌブイは、男達が三カ所の山に入り、山にある植物を身にまとい神となって集落に降りてきて、集落の豊年や女性・子供達の無病息災を祈願する。神々しささえ感じるやんばるの森。自然と深く結びついた暮らしの中で、積み重ねられてきた知恵や信仰、土地に息づく歴史や文化に触れる、そんな旅を楽しんでいただきたい。

右 / 沖繩初の王「舜天」の孫にあたり3代目の王となるが、疫病・飢饉が続き、自らの政策の悪さが招いたものと王位を譲り、この地で没したとされる、伝説の義本王(ぎほんおう)の墓。石積み建造物として一見の価値のある美しさ。下 / シヌグなどの祭祀場となる、安田公民館前にある神アサギ。



左 / 「国頭さばくい(くんじゃんさばくい)の碑。琉球王朝時代、首里城の改修工事の際に、国頭山々から伐り出し王府へ献上した伐木を、曳いて運んだ時に歌ったのが「国頭さばくい」である。この木遣り歌は、大勢で掛け声を掛け合い、音頭を取りながら心をひとつにして歌われたという。

豊かな自然と深く結びついた暮らしから生まれる歴史と文化
安須杜のシヌグシ嶽頂上には、琉球七御嶽のひとつ「安須杜御嶽」がある。天から降りたアマミキヨが最初に創った聖地である。ただ切り立った岩山の頂上であり、約30分の行程は、登山のためのロープや鎖はあるものの、危険をともなう岩場の急斜面が多く、観光気分では登るような場所ではない。山頂にはいくつもの祠があり、そこからの光景はまさに神の頂きに相応しい荘厳なもの。安須杜の切り立った岩山に森。沖繩本島最北端の地・辺戸岬や断崖絶壁が続く荒々しく美しい雄大な海岸線。北の洋上には与論島や沖永良部島の島影も見える。
琉球王国時代、船旅は非常な危険をともなう、命がけの行為であった。薩摩へと向かう航海では、沖繩本島最北の聖地・安須杜や辺戸の神女に、航海安全を祈る謡が数多くある。
一 辺戸に おわる ましらて
ましらては 崇べて
吾守て
此渡 渡しよわれ
又 奥に おわる ましらて
ましらては 崇べて
『おもろさうし』第13巻922
「辺戸に、奥にましますましらて神女よ。ましらて神女は神を崇め敬つてお祈りをします。我々を守つてこの海を渡し給え」
村の面積の約84%が森林という国頭村は、国指定天然記念物のノグチゲラやヤンバルクイナ、ヤンバルテナゴコガネなどの貴重な動植物が生息する、自然豊かなエリアでもある。その亜熱帯の森が、平成19年3月、森林セラピー基地として沖繩県内で初めて認定された。
森林セラピーとは、医学的な証拠に裏付けされた森林浴効果のことで、森林環境を利用して心身の健康維持・増進、疾病の予防を行うことを目指すもの。森が心身を癒してくれることは古くから知られ、森林浴として親しまれてきた。森林セラピー事業では、この癒し効果を検証すると共に、全国の森の癒し効果を検証し、優れた森を厳選して森林セラピー基地として認定している。現在、NPO法人森林セラピーソサエティによって、全国53か所の森が「森林セラピー基地」「森林セラピーロード」として認定されている。国頭村は全国53の森林セラピー認定地で唯一の亜熱帯林。「命薬の森」(ぬちぐすい)心から癒やされる)としてさまざまなプログラムが用意され、多